

## 平成 29 年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

帯広市立愛国小学校

4月18日に全国の小学校6年生児童を対象に実施されました標記調査が本校にも届きました。以下4領域と児童質問紙による実施となりました。

- ◇「国語A」…国語科の知識理解の習得
- ◇「算数A」…算数科の知識理解の習得
- ◇「国語B」…国語科の知識理解の活用
- ◇「算数B」…算数科の知識理解の活用
- ◇質問紙による生活実態調査

すでに帯広市教育委員会のホームページで公表されているとおり、本市全体正答率は、すべての領域で全国平均を上回るという目標を達成できませんでした。

本校の結果については、調査を受けた児童が5名と少ない人数であることから、各問題の結果をそのまま本校の傾向としていくことは難しいと考えます。したがって、結果を詳細に分析する中で以下の2点について今後取り組みます。

- ①児童一人一人のよさや課題を明らかにし、個々の学力向上に役立てていきます。
- ②共通して確認できる結果については、学校全体のものとし、よさの積み上げや課題解決に向けた具体的な授業改善を行います。

### ～本校の結果概要～

#### 「国語A・B」

○平均正答率は、A問題で全国平均を若干下回りましたが、B問題では全国平均を上回りました。

※A問題では、考えの共通点や相違点の整理、手紙の構成に関して課題が残りましたが、漢字の読み書き、ことわざの理解・活用等については正解率が高く、よさが見られました。

※B問題では、全国平均を上回りながらも書くことに若干の課題が見られました。

#### 「算数A・B」

○平均正答率はA問題で若干全国平均を下回り、B問題では全国平均と同程度でした。

※A問題では「量と測定」以外については全国平均を上回るか同程度です。

※B問題では「数と計算」「数量関係」については全国平均を上回るか同程度です。

#### 「児童質問紙より」

質問紙調査の結果から、子どもたちは将来の夢や規範意識をもち、学校生活が楽しく充実していると感じていることがわかりました。また、テレビ・ビデオ・DVDの視聴について、極端に長くはないものの、学習時間や読書の時間がやや少ない傾向にあります。

## ～今後の授業改善・改善方策などについて～

(1) 授業のユニバーサルデザイン化の視点を活用し、一人一人に応じた指導方法の工夫改善を図る。

①見通し(課題)・振り返り・確認(まとめ・定着)を重視した(焦点化),「わかる」授業の展開を目指す。

②言語活動の充実→言語能力・読解力の向上→学力の向上(共有化)

ア 書いて説明する活動, 図や表, グラフなどで説明する活動の重視(脱わかつたつもり)

イ ペアやグループでの対話や「説明」「説得」を重要視する授業(思考過程の振り返り)

ウ 学習活動で得た情報をアウトプットする取組(短作文など)によるメタ認知の向上

③各種教材教具, ICT機器などの効果的な活用(視覚化)

(2) 家庭と連携し, 家庭学習習慣の確立を図る。

①数値目標・・・学校の授業時間以外に1日当たり「学年×10×1.5」分とする。

②家庭学習・・・家庭学習の手引き等を配付し, 学習習慣を確立するための家庭への啓発の継続化, 宿題の充実

③その他・・・幼保小中の連携(エリアファミリー)で統一した取組の充実を図る。

『毎月7日は, 七中エリアの日』第七中学校エリアファミリー(第七中, 大正小, 愛国小)で統一した取組「アウトメディアデー」の月1回の実施により, 本校の課題である学習習慣及び読書習慣の定着を図る。

(3) 改善方策

○今回および今後の各種調査結果の分析と課題の共有化を常に図り指導に生かす。

○全校共通の取組

・教室環境整備, 学習規律の徹底,

○校内研究とリンクした学習過程等

・学習過程の中に意図的に書く活動を位置づけ, 相手意識をもって伝え合う授業の構築

○計画的・継続的な朝学習, 朝読書の効果的な取組

○放課後や長期休業日等における補充学習の実施